

令和5年度 第2回北海道 Society5.0 推進会議 「データ利活用ワーキンググループ」開催概要

1 日 時

令和5年12月20日（水）15:00～17:00

2 実施場所

かでの2. 7 940会議室

3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

4 議 題

別添「次第」のとおり

5 議 事

(1) 議事1 本日の会議について

・事務局（北海道）から説明（資料1）

(2) 議事2 国の取組紹介 公共サービスメッシュ（情報連携の基盤）について

・事務局（北海道）から説明（資料2）

(3) 議事3 事例紹介

・データ取引市場を活用した官民データ利活用による札幌都市部の賑わい創出・観光 MaaS の実現に向けて（資料3）（非公開資料含む）

(4) 議事4 道の取組報告及びデータ利活用・連携基盤の調査報告（資料4）

・事務局（北海道）から説明（資料4）（非公開資料含む）

(5) 議事5 第1回WGにおける議論の整理

・事務局（北海道）から説明（資料5）

(6) 議事6 意見交換

- やっぱり何か一つ小さな成功体験でも生み出して、それを見せていくっていうことをしないとなかなか転がっていかないなど。それはもう、ここ何年間で痛感しているっていう感じなので、そこには少しお金をかけつつやる必要がある。
- 広告収入ってものをこれから行政も考えていかなきゃいけないと、そこでユーザー数が稼げるように、そのユーザーデータを統計化して、外に出していくとか、そういったことも考えていかなきゃいけないと思う。
- FIWARE 自体は、ただそれ以外のものを変換しようとするといろいろ仕組みが必要で、瞬間のデータしか扱うのが得意じゃないので、用途に応じて、FIWARE で何でもできると思わない方がいい。
- スーパーアプリを作っていくと余りにも重たすぎて、全然費用対効果が合わない、民間がこの情報を買ってアプリに実装して提供するの、採算性も合わない、民間の企業のアプリ同士なのか、それ以外のサービスとなのか、ある程度の連携も含めてできると価値が上がってくる。
- 官民で協議できるような実証できるような場みたいなどころがあると、市町村を超えた、例えば商業圏の広がりみたいなどころで、北海道の課題だと思ってるいろいろやっていけたら面白い。

- よく行政は行政でアプリを作って、民間は民間のアプリを作って、それがもう乱立して、今統合に向かっていく流れはあるが、モジュール化できないかなと思っていて、行政が作っているいろんなサービスを民間のアプリの中とかサイトの中にもどんどん組み込んでくださいってというような、ポリシーとか号令がかかると、結構流通業さんだと、新しいコンテンツを拡充したい企業さんも多いので例えば、ごみの収集のルール、日付カレンダーが自動で出てくるとか、気象レーダーもそうですし、まだまだ組み込んでいいよっていうだけで大分変わってくるかなと思う。かつ、どういう人材がいるのかっていうと、データをアプリとかサイトに組み込んで、利便性上げていこうということを考える人が少ないかなと思っていて、自分たちのデータが自分たちの中だけで作ろうという所が多いので、その辺をもうちょっと啓蒙する必要がある。
- やっぱ必要なのは、どう使って、どうしたらこうサービスがアップできていくとか、データを扱うことに対してのハードルは下がってきているので、よりどうしようっていう方に発想を豊かにして行く方にリソースを割いていくべき。
- 道庁の資料で各自治体の方で、ピンと来ないというような回答があったが、おそらく民間も同じような感じだと思う。データを連携して活用して何かって言われても、ピンときませんってところがやっぱり一番だと思っているので、今後のワーキンググループのところの取り組みが、自治体職員が実践していきましようということだったが、自治体だけじゃなくて民間と一緒に共同で何か作ってくということの実践をやるのが建設的だと思う。
- この会での議論は、実践をやってくかというフェーズに来ている。
- おそらく、自治体の業務システムを使っている側の職員が、自分たちが今日の前のシステムを標準化することで、窓口に来るお客さん達に、将来がこういうふうになっていくということをイメージして標準化に取り組んでいる職員ってほぼいないと思う。
- 思い描いている絵みたいなのをちゃんと見せていかないと、何のためにこれをやっていて、将来どうなっていくんだというところが全然伝わっていないのかなって印象がある。
- やった時に具体的にメリットとして何が生まれるのかっていう話を先にぶら下げないと、なかなかこう、その先の話が進まないかなと思う。
- 最初は、行政職員の方々がデータを作るっていうことを、最初の、卵・鶏に持ってきて、行政の方々がそれを使うことによって、いろいろ今まで人手をかけていたものを、大変な手間だったものっていうのが、労力削減できて、自分たちの仕事も楽になってくるよねってところが最初のような気がする。
- 道庁で、公開できるデータの棚卸しをしているが、これを公開することのメリットが出てこないと手は動かないのかなと。
- 大卒の高尚な理念みたいな話も大事だけど、一方で、ちゃんと地に足がついたようなそういう話もしていかなきゃいけない。
- 例えば、csv でこういう形でこういうデータを揃えてくれば、ChatGPT にドラッグアンドドロップすると、こんな分析やデータ、アナリティストがやるような分析ができますよみたいな。そういうような ChatGPT のアプリっぽいものを一つ作って、それを例にして見せると、こんなデータを作るだけでそんなことがわかるというようなことできると思う。そういうことも含めて、卵・鶏の話の、1例っていうのを、作るっていうことに進んで欲しいと思っている。

(7) 議事7 今後の進め方

- ・事務局（北海道）から説明（資料7）